

2018年度

事業報告書

vol.12 2018年4月~ 2019年3月





病院理念

医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める

基本方針

- 一、家庭的な優しい医療・介護の実施に努めます
- 一、地域の皆様から安心・信頼される病院づくりに努めます
- 一、患者さんひとりひとりの権利を尊重するように努めます
- 一、たえず医療・介護の質の向上に努めます
- 一、地域の健康増進・病気の予防に努めます





ご挨拶

理事長 中 村 英次郎

明野中央病院は、1974年に明野の開拓・団地の新造に伴い人口が急増する中で、整形外科医の中村 裕によって開設されました。中村 裕は医師として早朝から深夜まで診療・手術を行い、地域医療に邁進しましたが、一方で、先駆的な福祉工場である「社会福祉法人 太陽の家」を開設し、大分国際車いすマラソン大会の開催を提唱するなど、身体障がい者福祉にも尽力し、その功績は現在でも高い評価を受けております。

中村 裕は常々、「医療・福祉の最終目標は、人間がいかに生きがいを得るかということである」と語っていました。つまり、病気や怪我をされた方が、最新医療の技術で身体状況を改善させるだけでなく、元の生活、家庭・職場復帰をなし得るまで応援し、見届けるということです。たとえば、脊髄損傷の若者を手術し、車椅子に乗れるようにするだけでなく、退院後に笑顔で生活できるようにスポーツ活動を教え、仕事を紹介し税金を納付させ、一人の社会人として胸を張って生きていけるようになるまで見届けていたのです。この全人的で優しさに満ちた考えは、本院の病院理念である「医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める」に受け継がれています。

我が国は2025年問題を控え、医療・介護体系の改変が進み、病院は急性期、回復期更に 慢性期と機能別に細分化された結果、複数回の転院や主治医の交替、療養の場所が自宅 からどんどんと離れていくということは決して珍しいことではありません。施した最新 医療、その後の介護の結果、本人やご家族の満足感が低いこともしばしば見受けられます。 今こそ我々医療関係者は、結果として患者さんの生活の質の向上に貢献し得るかどうか、 急性期の段階から常に念頭に置きながら行動し、退院後の生活まで、できる限り見届けて いくことが肝要と考えます。

明野中央病院の職員一同は、創設者である中村 裕の考えを現在に活かしながら、責任の ある医療・介護を実行していく所存でございます。今後とも、何卒よろしくお願い申し 上げます。



ご挨拶

院 長木 下 昭 生

5月1日に新天皇が即位され、約30年持続した平成が終わり新しい令和の時代を迎え ました。この30年間に日本人の人口動態は大幅に変化し、世界に類をみない少子高齢化が 進展しました。平成12年4月からは高齢者の支援を社会全体で支える仕組みとして介護 保険制度がスタートしました。今後、わが国は必然的に多死社会を迎えることとなり、 1980年代には80万人だった死亡数が2017年には130万人まで増加し、今後も更に増加して いくことが予想されています。しかも、そのほとんどを占める高齢者が「突然の死」では なくいわゆる「長くて緩慢な死」を迎えることとなった現在では、死を単なる個人の問題 ではなく社会の問題として捉える必要性が出てきました。すべての高齢者の最期を濃厚な 医療で迎えるより、病気の内容によっては在宅で家族に囲まれて最期を見守る死も選択肢 の一つと捉えられるようになり、診療報酬上でも、癌だけでなく繰り返す肺炎や心不全も 看取りの対象となりました。更に、国はAdvance care planning (ACP) の重要性を 認識し、「人生会議」と称して、元気な時から最期の時をどう迎えるか、家族や医療介護の 専門家と繰り返し話し合い、共有する取り組みを開始しました。その成果のためか、最近は、 終活とかエンディングノートとかの言葉がよく聞かれるようになりました。この中には、 これまでの自分の生き方、死後の財産の処理の仕方とともに延命治療の在り方などの内容が 含まれています。これらの考え方自体は素晴らしいことですが、高齢者に死に方の強要を するのかとあらぬ誤解を生んだり、延命治療をするしないをいつでも撤回できるのでは 救急医療の現場では混乱を招くのではないか、胃瘻造設を拒否しているため病院から退院先 が見つからない場合どうするのか等、さまざまな課題が指摘されているようです。

地域包括ケアシステムが開始される2025年までには、エンディングノートが国民に広く 普及し、国民の多くが穏やかな最期を迎えられる社会に一歩近づいていることを望みます。 そして、当院も地域医療の一端を担うべく努力を続けていきたいと思います。新しい 年報が完成しました。1年間の当院の歩みを感じ取っていただければ幸いです。

目 次

病院理念 基本方針	
	四重目 山丹基炉印 9
,	
ご 挨 拶	······ 院 長 木下 昭生 3
地域交流会(ふくろうの会) 5	臨床検査科 39
ボランティアの会 5	臨床工学科40
	看 護 部
病院概要 6	看護部41
施設基準 7	外 来 43
病院沿革 8	2階病棟 44
創設者 中村 裕について 9	3 階病棟45
職種別職員数 9	手 術 室 46
学会・研修会への参加 10	事務部
トピックス 13	医療事務課 48
	明野中央在宅医療介護センター
部 門 報 告	明野中央介護支援センター 49
医療安全管理室20	訪問看護ステーションふくろう … 50
地域医療連携室 21	
こつ・かんせつ・リウマチセンター	クリニカル・インディケーター … 51
22	
診療部	委員会報告
内 科24	委員会
消化器内科 26	医療安全管理委員会60
整形外科 27	感染対策委員会 62
麻 酔 科 30	褥瘡・栄養対策委員会 63
医療情報部	教育委員会 64
診療情報管理室32	その他
情報システム課 33	NST委員会65
メディカルクラーク課 34	糖尿病相談会 66
医療技術部	VTE(静脈血栓塞栓症)対策チーム
リハビリテーション科 35	67
栄養科36	
薬 剤 科 37	ニュースリリース 68
放射線科 38	

地域交流会(ふくろうの会)

活動内容

当院は、病院理念に「医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める」を掲げ、 地域の皆様から安心信頼される病院作りを目指し日々努力しています。真に地域に根ざした 医療機関として、皆様方の期待に応えられる病院としてのあるべき姿を模索しています。

ふくろうの会は、広く地域の皆様方と意見交換を行い、医療全般に関する苦情、要望、地域 の病院として当院の果たす役割等についてご意見を頂きたく2004年9月に発足しました。

近隣の自治会の方を中心に、年に数回お集まりいただき、病院の近況報告、病院への要望等の意見交換をしています。

メンバー 2019年3月現在(敬称略)

湯田 国男(ふくろうの会会長)

倉八 誠(明野日の出町自治会長)

甲斐田生嗣 (明野高尾自治会長)

脇 将章(明野東町自治会長)

小柳 義明(明野旭町自治会長)



ボランティアの会

活動内容

花壇の花の手入れなどのグリーンボランティア、患者 さんやお見舞い客にお茶やコーヒーを振る舞うティー パーティーの開催、健康関連講演会の企画やお手伝い等、 当院の活動の一端を病院ボランティアの方々が担って います。

暑い夏や寒い冬にも病院の花壇にきれいな花が咲いているのは、ボランティアの方々の日頃の地道な活動のおかげです。春と秋に開催されるティーパーティーは、 患者さんだけでなく病院職員にも大好評です。

メンバー 2019年3月現在(敬称略)

会 長 志水 篤信

副会長 赤田 久代 田代 千枝

加来邦子倉住れい子坂井礼子高平潤子高木美和石田洋子



グリーンボランティア



ティーパーティー

佐々木友江



病院概要(2019年3月現在)

診療科目

内科 整形外科 リウマチ科 消化器内科 形成外科 リハビリテーション科 麻酔科 放射線科 ペインクリニック内科

病床数

75床 (一般)

2階病棟 一般病床:45床(地域包括ケア病床10床含む)

3階病棟 回復期リハビリテーション病棟:30床

専門医研修施設

日本整形外科学会研修施設

日本手外科学会研修施設

日本リハビリテーション医学会研修施設

日本高血圧学会研修施設

学会認定 専門医・指導医

日本内科学会 専門医

日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医

日本整形外科学会 専門医

日本脊椎脊髓病学会 指導医

日本手外科学会 専門医

日本リハビリテーション医学会 指導医 専門医

日本リウマチ学会 指導医 専門医

日本消化器病学会 専門医

日本消化器内視鏡学会 専門医

日本神経学会 専門医

日本麻酔科学会 専門医

日本ペインクリニック学会 専門医

介護保険事業

訪問リハビリテーション 通所リハビリテーション

関連施設

訪問看護ステーションふくろう 明野中央介護支援センター

施設基準

機能強化加算	薬剤管理指導料	
急性期一般入院基本料	別添1の「第14の2」の1の(3)に規程する	
診療録管理体制加算 1	在宅療養支援病院	
医師事務作業補助体制加算1	在宅時医学総合管理料・特定施設入院時等	
急性期看護補助体制加算	医学総合管理料	
療養環境加算	検体検査管理加算Ⅱ	
感染防止対策加算2	CT撮影及びMRI撮影	
後発医薬品使用体制加算1	外来化学療法加算1	
病棟薬剤業務実施加算1	脳血管疾患等リハビリテーション料 I	
データ提出加算	運動器リハビリテーション料 I	
認知症ケア加算	呼吸器リハビリテーション料 I	
回復期リハビリテーション病棟入院料1	輸血管理料Ⅱ	
地域包括ケア入院医療管理料 1	輸血適正使用加算	
入院時食事療養 I	麻酔管理料1	
ニコチン依存症管理料	脊髄刺激装置植込術	
がん治療連携指導料		





病院沿革

1974(昭49)年1月	医療法人社団恵愛会 大分中村病院の分院として開院(病床数65床) 『救急指定病院』『労災指定病院』の指定取得
1978(昭53)年11月	『医療法人社団唱和会 明野中央病院』として、分離独立
1997 (平9) 年3月	社団法人日本整形外科学会認定医制度による『研修施設』認定取得
1999 (平11) 年5月	第一期増築工事完成(病床数70床) バイオクリーンルーム設置 ヘリカルCT設置
7月	身体障害者福祉法第19条の2の規定による『更生医療を担当する医療 機関』の指定取得
2002 (平14) 年6月	第二期增築工事完成(病床数75床)
7月 9月	MRI設置 パワーリハビリテーション機器導入
2004 (平16) 年1月	一般病床45床、特殊疾患療養病棟(30床)に変更
2005(平17)年9月 10月	一般病床のうち、8床を『亜急性期入院医療管理料』として届出 日本医療機能評価機構 認定取得
2006 (平18) 年4月	『亜急性期入院医療管理料』を8床から10床に変更 院外処方箋発行開始
9月	マルチスライスCT設置
2007 (平19) 年2月	特殊疾患療養病棟(30床)を回復期リハビリテーション病棟(30床) に変更
2008(平20)年1月 10月	日本手外科学会 基幹研修施設に認定 回復期リハビリテーション病棟入院基本料 1
2009(平21)年7月 11月	『こつ・かんせつ・リウマチセンター』開設 『日本リハビリテーション医学会 研修施設』に認定
2010 (平22) 年4月	『日本高血圧学会 研修施設』に認定 『日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設』に認定
9月	『日本リウマチ学会教育施設』に認定
10月	日本医療機能評価機構Ver. 6 更新
2014 (平26) 年4月	亜急性期病床(10床)を地域包括ケア病床(10床)に変更
2015 (平27) 年4月 9月	『訪問看護ステーションふくろう』『明野中央介護支援センター』 開設 増改築工事 着工
2017 (平29) 年3月	增改築工事 完成

創設者 中村 裕について



創設者 中村 裕 (1927年~1984年)

1951年 九州大学医学部卒業 同大学整形外科医局に入局

1960年 英国ストーク・マンデビル病院に留学

1961年 第1回大分県身体障害者体育大会を開催

1964年 東京パラリンピックの日本選手団長を務める(以降、

1980年までの全ての夏季パラリンピックの団長を

務める)

1965年 大分県別府市に、障がい者の自立を目的とした「社会

福祉法人 太陽の家」を設立

1975年 第1回極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会(フェス

ピック)開催

1981年 第1回大分国際車いすマラソン大会の開催に尽力

1984年 死去 享年57

当院は、1974年1月に創設者であり初代理事長である中村裕により開設されました。

中村 裕は、日本ではまだ「リハビリテーション」という言葉も普及していなかった昭和 30年代に当時の医療先進国イギリスに渡り、最新の医療事情、特に障がい者の社会復帰のための リハビリテーションと障がい者スポーツを学びました。その経験を日本に持ち帰り、1965年 に障がい者の社会復帰を支援する社会福祉法人「太陽の家」を創設しました。

整形外科の医師としては、大分中村病院(1966年12月)と明野中央病院という2つの病院を開設し、障がい者スポーツの分野では、東京パラリンピックや極東・南太平洋障害者スポーツ大会(フェスピック)などの開催に尽力しました。

1981年の国際障害者年を記念して中村の提唱により始まった「大分国際車いすマラソン大会」は、すでに長い歴史を刻み、今では世界最高レベルの障がい者スポーツ大会として世界中の車いすアスリートの目標となっています。

職種別職員数

164名(2019年3月31日現在)

医	師	9名	理学療法士	14名	臨床工学技士	1名
薬剤	師	3名	作業療法士	8名	管理栄養士	2名
看 護	師	77名	言語聴覚士	2名	医療ソーシャルワーカー	2名
看護補具	助者	12名	診療放射線技師	5名	事務職員	26名
			臨床検査技師	3名		



学会・研修会への参加

学 会 名	期間	場所	参加 者
第47回 日本脊椎脊髄病学会	2018年 4月11日~13日	神戸	吉岩 豊三
第115回 日本内科学会	4月12日~15日	京都	木下 昭生
第47回 日本脊椎脊髄病学会	4月13日~15日	神戸	中村英次郎
日本区域麻酔学会 第5回 学術大会	4月13日~14日	大阪	高谷 純司
第104回 日本消化器病学会	4月18日~21日	東京	西宮 実
日本病院協会 診療情報管理士通信教育後期スクーリング	4月23日~26日	博多	日高菜津美
第62回 日本リウマチ学会	4月25日~27日	東京	藤川 陽祐
第62回 日本リウマチ学会	4月28日~30日	東京	中村英次郎
第95回 日本消化器内視鏡学会	5月9日~12日	東京	西宮 実
第68回 日本麻酔学会	5月18日~20日	横浜	高谷 純司
平成30年度 第1回 病院機能改善支援セミナー	5月24日	博多	里谷 和幸 他
第91回 日本整形外科学会	5月25日~27日	神戸	中村英次郎
第84回 西日本脊椎研究会	6月1日~2日	博多	吉岩 豊三
第135回 西日本整形・災害外科学会	6月2日~3日	博多	中村英次郎
平成30年度 入退院支援強化研修	6月3日	大分	前原 英子 他
看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	6月7日	大分	長島みゆき 他
大分周術期管理セミナー	6月9日	アステム	工藤 好子 他
第73回 九州消化器内視鏡技師研究会	6月9日	小倉	都甲 博史
EULAR 2018	6月12日~17日	オランダ	藤川 陽祐
第12回 日本訪問リハビリテーション協会 学術大会	6月16日~17日	小倉	安部 和弥
医療実務研究会 接遇研修	6月16日	別府	三浦 佳美
標準予防策 感染防止研修	6月22日	大分	板屋 麗奈
2018年度 看護必要度評価者研修	6月24日	福岡	鈴木 京子 他
看護補助者のための研修	6月26日	大分	矢野 広美
日本リハビリテーション医学会 第55回 学術集会	6月28日~7月1日	博多	宮崎 眞理
第55回 日本リハビリテーション医学会	6月30日~7月1日	博多	中村英次郎
第44回 日本骨折治療学会	7月5日~8日	岡山	中村英次郎
国際モダンホスピタルショー 2018	7月11日~13日	東京	首藤 大樹
平成30年度 通所型サービス事業所実践力向上研修会	7月11日	大分	佐々木信弘
第31回 日本臨床整形外科学会	7月14日~16日	鹿児島	中村英次郎

学 会 名	期間	場所	参加者
よくわかる心電図シリーズ(1)	2018年7月17日	大分	内藤 美奈 他
第52回 日本ペインクリニック学会	7月19日~21日	東京	高谷 純司
日本スポーツ協会 公認スポーツドクター研修会	7月21日~22日	東京	中村英次郎
Depuy Synthes 開催 脊椎若手の会	7月21日~22日	熊本	吉岩 豊三
ATST meeting 2018	7月27日~28日	東京	吉岩 豊三
平成30年度 全国栄養士大会	7月28日~29日	東京	安部美早紀
日本病院協会 医療事務作業補助者32時間研修	7月27日~29日	博多	河野 莉沙
在宅ターミナル研修会	8月2日~8日間	大分	丸山 邦香
Knee Osteotomy 研究会	8月4日	博多	原 克利
中小規模病院 看護師のクリニカルラダー導入に関する研修	8月5日	大分	鈴木 京子 他
Great Expectation	8月25日	大阪	原 克利
平成30年度 公認中級障がい者スポーツ指導員養成講習会	8月25日~4日間	大分	田中 輪
第49回 日本看護学会学術集会	9月7日~8日	別府	鈴木 京子
最新の褥創ケアI	9月13日	大分	北條 祥子 他
第41回 日本高血圧学会	9月13日~16日	旭川	木下 昭生
第44回 日本診療情報管理学会	9月19日~21日	新潟	佐藤 伸一
よくわかる心電図シリーズ(2)	9月27日	大分	板屋 麗奈 他
Hip Forum 2018	9月29日~30日	東京	原 克利
大分県の災害医療体制について 職能別交流会	10月6日	大分	鈴木 京子 他
第33回 日本整形外科学会基礎学術集会	10月12日~13日	奈良	藤川 陽祐
大分県中小規模病院等看護管理者支援研修	10月20日	大分	鈴木 京子 他
第45回 日本股関節学会学術集会	10月25日~27日	名古屋	原 克利 他
日本骨粗鬆症学会 骨粗鬆症マネージャレクチャーコース	10月26日~28日	長崎	鈴木 京子 他
日本栄養士会 平成30年度 スキルアップセミナー	10月26日~28日	東京	中村 佳子
日本医師事務作業補助者研究会 第7回 福岡地方大会	10月27日	福岡	河野 麻美
Oxford TTT Program in November 2018	10月27日~11月2日	英国	藤川 陽祐
第26回 日本消化器関連学会週間	10月31日~11月4日	神戸	西宮 実
第2回 日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会	11月2日~4日	仙台	中村英次郎
日本内分泌学会	11月1日~4日	博多	木下 昭生



学 会 名	期間	場所	参 加 者
第52回 日本側弯症学会	2018年 11月2日~3日	東京	吉岩 豊三
第13回 九州放射線医療技術学術大会	11月9日~11日	那覇	太田 裕昭
大分県認定看護管理者研修	11月10日	別府	鈴木 京子 他
第5回 日本サルコペニア・フレイル学会	11月10日~11日	東京	中村英次郎
第90回 西日本脊椎研修会	11月10日~11日	博多	吉岩 豊三
第38回 医療情報学連合大会	11月22日~25日	博多	佐藤 伸一
第33回 日本臨床リウマチ学会	11月23日~25日	東京	藤川 陽祐
日本病院会 診療情報管理士通信教育後期スクーリング	11月24日~27日	博多	日高菜津美
骨粗鬆症マネージャー認定試験	11月25日	東京	鈴木 京子 他
第21回 日本低侵襲脊椎外科学会 第20回 脊椎内視鏡下手術技術講習会	11月29日~12月2日	東京 神戸	中村英次郎
第9回 新別府病院DA院内発表会	11月29日	別府	安部 智美 他
Dr Leaders Meeting	12月1日~2日	博多	吉岩 豊三
権利擁護・虐待防止とリスクマネジメント研修	12月5日	大分	後藤 由衣
Depuy Synthes 社内講演	12月14日~15日	東京	吉岩 豊三
利用者の自立支援とケアマネジメントの	2019年	大分	森山 文子
適性化研修	1月9日	八刀	林山又丁
第22回 大分県作業療法士学会	1月20日	大分	山﨑 翔太 他
平成30年度 精神科訪問看護研修会	1月24日~26日	博多	佐藤小百合
第21回 大分県理学療法士学会	2月3日	別府	佐々木信弘 他
Medical Education アメリカ	2月9日~14日	米国	吉岩 豊三
診療情報管理士 認定試験	2月9日~10日	博多	日高菜津美
第49回 日本人工関節学会	2月14日~16日	東京	藤川 陽祐
第40回 九州手外科研究会	2月15日~17日	長崎 福井	中村英次郎
回復期リハビリテーション病棟協会 第33回 研究大会	2月20日~22日	千葉	戎 宏季 他
第38回 食事療法学会	3月1日~3日	札幌	中村 佳子
第41回 大分県看護研究大会	3月2日	大分	鈴木 京子 他
川嶌整形外科病院 院内研究発表会見学	3月2日	中津	安部 和弥 他
聖隷浜松病院 手術研修	3月3日~5日	浜松	吉岩 豊三
整形外科領域再生医療セミナー in 福岡	3月9日	福岡	原 克利 他
第57回 九州リウマチ学会	3月9日~10日	博多	藤川 陽祐



腰椎椎間板ヘルニアの新たな治療法

椎間板内酵素注入療法

腰椎椎間板ヘルニアとは?

人の背骨は椎骨という骨がいくつも積み重なってできています。椎骨と椎骨の間には椎間板があり、クッションの役割を果たしています。椎間板の中にはゼリー状の髄核があり、周りを線維輪が囲んでいます。この背骨を支える椎間板に、日常生活で何らかの負担がかかり、その影響で線維輪に亀裂が生じ、中の髄核が飛び出すことがあります。この飛び出した部分が「ヘルニア」です。このヘルニアが近くを通る神経を圧迫して痛みやしびれなどを引き起こすのが、「腰椎椎間板ヘルニア」です。

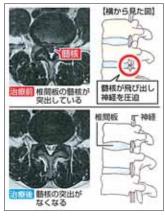
主な症状は、足の痛み、しびれ、筋肉の麻痺、腰痛等であり、重症の場合には、尿が出にくいなどの排尿障害が起こることもあります。

腰椎椎間板ヘルニアの治療法

腰椎椎間板ヘルニアの治療法としては、痛みを抑えるための鎮痛薬や湿布薬、腰への負担を減らすコルセットなどを使う保存療法があります。保存療法で効果がみられない場合に他の治療法を検討します。保存療法の次に行われる治療法としては、従来は多くの場合手術療法となっていましたが、「椎間板内酵素注入療法」の登場により、治療の選択肢が広がりました。これにより、手術をしなくても良い治療効果が得られる可能性が出てきました。

ヘルニコア(椎間板内酵素注入療法)

椎間板内酵素注入療法は、ヘルニコアという注射薬を使用します。髄核には保水成分(プロテオグリカン)が豊富にあり、水分で膨らんだ状態のヘルニアが飛び出して神経を圧迫しています。この保水成分を分解する酵素を含むヘルニコアを髄核に直接注入すると、髄核内の水分が適度に減り、その結果、神経への圧迫が弱まり、痛みやしびれなどの症状の改善が期待されると考えられています。当院では、原則として、手術室にて注射を行っていますが、治療後しばらく安静にして、副作用等がないことを確認して問題がなければ帰宅できます。なお、ヘルニコアの副作用として、一過性の腰痛や下肢痛、発疹、発熱、頭痛などが報告されています。また、この治療は日本脊椎脊髄病学会指導医が在籍する医療機関でなければ行えないなどの制約があります。詳しくは整形外科専門医にご相談ください。



▲椎間板ヘルニアの注射治療





▲椎間板内酵素注入療法を 担当する日本脊椎脊髄病 学会指導医の中村英次郎 理事長



注目の再生医療

多血小板血漿 PRP療法・APS療法

誰もが生まれながらにして持っている「自然治癒力」を利用した治療法である"再生医療"。 その中で、すでに実際に治療として行われているものにPRP(多血小板血漿)療法があります。 PRP療法とは、人の血液中に含まれる血小板の成長因子が持つ組織修復能力を利用し、私たちに本来備わっている「治る力」を高め、回復を目指す新しい治療法です。海外では、2000年頃からプロスポーツ選手のケガの治療などに使用されたことで注目され、その後国内でも、肘やひざの痛み、腱や筋肉の損傷などの新しい治療法として期待を集めています。

人の血液に含まれる血小板には、止血作用とともに、成長因子を放出して損傷部分を修復する働きがあります。血小板が放出する成長因子には、細胞増殖や血管の形成などに役立つものが数種類あります。それらが損傷部位に直接働きかけて細胞増殖を促進し、修復機能を高め、自然治癒力によってケガや病気を治療すると考えられています。自分の血液を利用するため安全性が高く、体への負担が少ないことも特徴の一つです。PRP療法の流れとしては、患者さん自身の血液を採血し、遠心分離機にかけ、血液中にある血小板を含む多血小板血漿 (PRP) を採り出し、患部に注射するというものです。

PRP療法の臨床使用が報告されている疾患

- ■テニス肘
- ■野球肘
- ■ゴルフ肘
- ■足底腱膜炎
- ■筋挫傷
- ■肉離れ
- ■膝蓋腱の炎症(ジャンパーズニー)



治療の流れ

変形性ひざ関節症の新たな治療法 APS療法

PRP(多血小板血漿)に特別な加工を加え、抗炎症成分や軟骨の健康を守る成長因子を高濃度抽出したものが"APS"です。ひざ関節症の治療に有効な成分が高濃度に含まれるため次世代PRPと言われています。

ひざ関節症の関節内では、軟骨の破壊を引き起こす悪いタンパク質の働きが活発になっています。悪いタンパク質は、炎症を悪化させ関節の痛みを増加させます。この悪いタンパク質の働きを抑え、軟骨の破壊に傾いた関節内のバランスを改善する良いタンパク質がAPSです。つまり、人の血液には関節の炎症を抑える良いタンパク質も存在し、それを高濃度に抽出した溶液がAPSなのです。APS療法は、悪いタンパク質が過剰に存在する関節内に良いタンパク質を豊富に含むAPSを注射し、炎症バランスを改善することで痛みを軽くし、軟骨の変性や破壊を抑える治療法です。

PRP療法、APS療法は、自分の血液を使用するため、安全性の高い治療法ですが、一般的な注射同様、関節液が漏れる、関節の痛み、こわばり、腫れなどの副作用が報告されています。また、新しい治療法のため、健康保険が適用されない自由診療となっています。

※当院で提供するPRP療法及びAPS療法は、再生医療等の安全性の確保に関する法律に 基づき所定の手続きを行っています。



Oxfordセミナーに参加して

昨年度、私が使用している人工関節の会社の日本での使用件数が日本一になったとのことで、Oxford大学での膝関節セミナーへ参加させてもらった。大学院時代2年間Oxford大学に留学していたこともあり、そのころ手術の手伝いをしていたMurry 先生が教授になっていたので病院見学をさせてもらった。

20年ぶりのOxfordの町はほとんど変わっていなかったが、 医療センターは全く近代的な建物に生まれ変わっていた。 手術室では、一日続けて5例の人工関節置換術が、朝8時半 から始まり夕方4時には終了していた。大学病院なので術者 は人工関節の置換が終わると次の部屋へ移動し、若い先生が 縫合をしていることも手術件数に関係しているようだ。



Murry教授は、もう手術をしておらず後輩のGibbons先生の 手術を見学させてもらった。手術は日本人の小さなひざと違い、大きなひざなので力は必要だが 技術的には楽な印象だった。

11月のOxfordはとても寒かった。朝の気温がマイナス5度、温かい大分に比べたら地獄のような寒さで、手袋をしないととても外出できない。Murry先生と以前一緒に仕事をしていた仲間たちとで久しぶりにPubへ行った。また最終日には、留学時指導を受けた教授が大学での食事に招待してくれた。皆さんご存じのハリーポッターの寮での食事と同じで、私はhigh tableと呼ばれる一段高くなったテーブルで教授たちと席を並べて食事を取った。とても印象的な時間を過ごせた。

欧州リウマチ学会に参加して

2018年6月、オランダ・アムステルダムで行われた欧州リウマチ学会へ参加した。欧州リウマチ学会へは大学勤務時代何度も参加していたが、最後の参加は2005年のウィーンだった。この頃参加者は数千人規模でそれでも大きな学会との印象を持っていた。今回、参加して驚いた。なんとかつて医師だけだった参加者は、医師・看護師・理学療法士などのメディカルスタッフ全てとなっており、7万人もの参加者で、会場は人、人、人…。

会場についてから参加登録するまで1時間半、参加登録して目的の会場へ移動するのに1時間、 シンポジウムは半分終わっていた。更に学会サイトから申し込んだホテルまで鉄道移動で1時間半という有様であった。

欧州の学会に参加して感じることは、日本の保険制度のすばらしさだ。欧州では日本では当たり前の生物学的製剤を使用できるのはお金持ちだけ。日本でも高額で使用をあきらめる人がいるが、 その数は日本の比ではない。

ところで皆さんは今ヨーロッパで日本食が健康的な食事として人気があるのを知っていますか? なんとアムステルダムの駅構内だけで3軒もの日本食店があり、電車で1時間半の郊外にあるホテルの 1階にも日本食店が入っていた。おかげで昔苦労していた食事には今回の旅では困ることがなかった。



さらなる手術手技**加上のため**カダバートレーニングに参加 (2019年2月9日から14日 in アメリカ、ペンシルベニア州)

今回の目的は、まずは手術手技向上のためです。 これは私が脊椎の医療に携わるようになって16年 経ちますが、未だに悩むことや治療に難渋する ことがあるので、少しでも良い医療を提供できる ようにとトレーニングに参加しました。

トピックス

もう一つの目的は、外国に触れることでした。 以前から、英語が話せたら世界中の広く色々な 場所を訪れたいと思っていました。なかなか できないのが現状ですが、今回良い機会と思い 決断しました。

2月でしたので日本も寒かったですが、アメリカでは寒波が来ていて、飛行機が出発できるかという問題が発生しましたが、無事に到着しました(ジョン・F・ケネディ空港)。

さらに目的地であるペンシルベニア州に向かいました。 少しだけ観光することができました。

私以外にも背椎外科医がトレーニングに参加しており、 交友を深めることもでき、それぞれの手術方法などについて も意見交換しました。

実際に手術器械を用いてのトレーニングとなりました。 手術部位は頚椎、胸椎、腰椎、脊椎全ての手術を行い、各 部位ごとに前方と後方の手術を行いました。解剖から確認 することができ、より一層脊椎の手術手技を深めることが できました。今後にも繋がる最良の経験となりました。

トレーニングセンターは広く、外国の方と片言の会話を しながら手術をこなし、今回の研修の目的を達成しました。





















伝説の医師、中村 裕 その波乱の人生

太陽を愛したひと ~1964 あの日のパラリンピック~

明野中央病院の初代理事長であり社会福祉法人「太陽の家」の創設者である 中村 裕博士の生涯が、向井 理×上戸 彩の出演でNHKテレビにより 感動のスペシャルドラマ化されました。

初回放送

平成30年8月22日(水) [NHK総合] 後10:00~11:10

"社会の常識"と戦い、東京 パラリンピックを成功に導い た伝説の医師の感動の物語。 主人公を向井 理、その妻を 上戸 彩でドラマ化!

なかむら ゆたか

1960年、整形外科医の中村 裕は研修先のイギリスで、スポーツを取り入れた障害者医療を学んだ。その時に出会った言葉が、その後の彼の人生の原動力になる。「失ったものを数えるな。残っているものを最大限に生かせ」 帰国した中村は、障害者スポーツを何とか広めようとするが……日本はリハビリという



言葉すらなかった時代、「見世物にしないでほしい」と抵抗にあう。しかし、ある少年との出会いをきっかけに、車いすバスケットボールを少しずつ普及させていった。そんな彼に驚きのミッションが! 第2回のパラリンピックとなる東京パラリンピックを実現させよ、というのだ。再び彼の前に立ちはだかる社会の常識という壁。障害者の家族からも反対の声が。しかし、家族や仲間の支えで、次々と突破していく。1964年の東京パラリンピックを成功に導き、その後は、障害者自立のための施設「太陽の家」を設立するなど、障害者の社会復帰に一生を捧げた伝説の医師、中村 裕。その波乱の人生を描いた感動の物語である。

(NHKホームページより)

"東京2020オリンピック・パラリンピック"に向けて、1964年の東京パラリンピック開催を実現した中村 裕の生き方や考え方が再び注目されています。





原点回帰 ~Starting Point ~

1961年、中村 裕の提唱で開催された日本初の身体障がい者によるスポーツ大会「第1回大分県身体障害者体育大会」。公開競技として行われた整形外科医師チーム VS 両下肢まひ者(国立別府病院)チームの車いすバスケットボールの試合の様子。日本のパラスポーツ競技が産声を上げた瞬間です。58年前の大分……全てはここから始まったのです。



OBS大分放送制作のドキュメンタリー 番組『太陽と生きた医師 中村 裕 ~No Charity but a Chance!』 2019年1月23日(水) 20:00~21:00放送 中村 裕博士の生涯が、イギリスでの取材や当時 の貴重な映像と共に紹介されました。



創設者 中村 裕



『パラリンピックとある医師の 挑戦』 2018年8月9日発行 講談社 漫画:三枝義浩

NHK総合テレビのスペシャルドラマ『太陽を愛したひと ~1964あの日のパラリンピック~』の原案となった漫画『太陽の仲間たちよ』の復刻版。パラリンピックの歴史や競技、活躍した選手も紹介している。



--『日本のパラリンピックの父 中村 裕』 2019年3月10日発行 小峰書店 佐野慎輔 著

小峰書店の「オリンピック・パラリンピックにつくした人びと」シリーズ。1964年の東京パラリンピック開催に尽力した中村裕博士の生涯を克明に描いた伝記。小学生向けの優しい文章でわかりやすく書かれている。